

エルサルバドル（2023年度）

- [国・地域別情報トップページへ](#)
- [各国・地域情勢](#)
- [在エルサルバドル日本国大使館](#)

1. 2021年度日本語教育機関調査結果
2. 日本語教育の実施状況
3. 教育制度と外国語教育
4. 学習環境
5. 教師
6. 教師会
7. 日本語教師派遣情報
8. シラバス・ガイドライン
9. 評価・試験
10. 日本語教育略史

1.2021年度日本語教育機関調査結果

機関数	教師数	学習者数								
		合計	初等教育		中等教育		高等教育		その他教育機関	
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
5	28	387	0	0.0%	0	0.0%	63	16.3%	324	83.7%

（注）2021年度日本語教育機関調査は、2021年9月～2022年6月に国際交流基金（JF）が実施した調査です。また、調査対象となった機関の中から、回答のあった機関の結果を取りまとめたものです。そのため、当ページの文中の数値とは異なる場合があります。

[「海外日本語教育機関調査」のページへ](#)

2.日本語教育の実施状況

全体的状況

沿革

エルサルバドルにおける日本語教育は、1970年代初頭に派遣された JICA 海外協力隊員により国立エルサルバドル大学に開設された日本語講座を唯一の日本語教育機関として発展してきた。しかし、1980年に勃発した内戦による社会情勢及び治安の悪化により、JICA 海外協力隊の撤退が決定し、これに伴い同大学における日本語講座も一時、閉鎖された。その後、1992年の内戦終結における治安情勢の改善により、1995年より国立エルサルバドル大学に日本語教師として JICA 海外協力隊員の派遣が再開され2012年より JICA シニアボランティアの派遣も開催された。2024年3月現在、日本語教育機関は、国立エルサルバドル大学（UES）内の日本語講座及び同大学外国語教育センター（CENIUES）、私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）、エルサルバドル日本文化センター（KIZUNA）及びサンタテクラ市立語学アカデミーがある。これらの機関の日本語学習

者を合計すると約 320 名（2024 年 3 月）である。この内、国立エルサルバドル大学の日本語講座の一部は、大学の単位取得が認定される正式科目となっている。

私立ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）での日本語公開講座は 2009 年 9 月に開設。2015 年 11 月に、JF による JF にほんごネットワーク「さくらネットワークメンバー」に認定された。また、同校は 2018 年 12 月に日本経済大学と学術協定を締結し、日本語分野の人材育成を目的として月に 1 回、日本語教師の研修会を行っている。

また、2020 年にエルサルバドル日本語教師会が「エルサルバドル日本文化センター（KIZUNA）」を創設し、オンラインクラスを開始したところ、地理的条件で日本語教育機関に通うことができていなかった地方在住者をはじめ、中米やヨーロッパといった国外からの受講者があるなど良い傾向も見られた。更に、同機関は当国において唯一の子ども向けクラスを行っている。

当国では、2003 年より日本語スピーチコンテストを実施しており、年々、参加者の語学レベルが上がっている。更に、2005 年より JF の日本語学習者訪日研修（成績優秀者研修）への参加が開始したのに加え、日本語学習者の文部科学省国費留学生への合格が、日本語学習者の意欲向上のきっかけとなっている。

JICA 海外協力隊員の指導により、エルサルバドル人の日本語教師が育っており、2012 年に国立エルサルバドル大学（UES）において初めてエルサルバドル人の日本語教師が正式雇用され（残念ながら 2021 年に非常勤講師契約に変更）、その指導を目的としてシニア海外ボランティアの派遣も開始された。また、日本語学習者の中には、個人でジャパン・リターン・プログラム（JRP）の作文コンクールに応募し日本へ招へいされたり、国際漫画祭に日本語で応募したりと積極的な活動が行われている。

2018 年より、日本語能力試験（7 月）が開始され、近隣諸国からの参加も含め毎年約 150～200 人の受験者がある。なお、2021 年より試験時期を 12 月に変更し、今後も引き続き同日程で行う予定である。

背景

エルサルバドルは「中米の日本」と呼ばれており、エルサルバドル国民の対日感情は良好である。1970 年代には約 400 名の在留日本人がおり（2023 年 10 月現在、約 129 名）、政治的、経済的にも深い二国間関係を有していた。内戦による治安の悪化により、在留日本人のほとんどが退去すると共に、日本国大使館も 1979 年から 12 年間にわたり閉鎖されたが、1992 年以降、内戦終結による民主化の進展と共に、各分野における二国間交流は再活性化している。エルサルバドル国民の日本に対する関心も高く、2025 年には、二国間関係の更なる増進の契機となる両国外交関係樹立 90 周年を迎える。

特徴

近年では、民間の語学学校でも学習者の需要に応じて日本語の授業が開講されており、プライベートレッスンを希望する者や独学者も増えている傾向にある。

二国間における経済・文化関係の緊密化と共に、日本語学習希望者も徐々に増加傾向にある。かつては、日本語講座受講者の大部分が日本への留学及び研修予定者など、特定の関心をもつ者に限られていたが、最近は日本の文化、中でもアニメや J-POP などのポップカルチャーに関心を持つ受講者も多い。受講者のレベルは初級が中心である。

最新動向

JF の海外日本語教育支援（助成）プログラムの支援を受けて「中米カリブ日本語教育セミナー」が各国持ち

回りで実施され、当国の日本語教師も参加している。2024年3月、19名のエルサルバドル人が日本語教育活動を行っている。

教育段階別の状況

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。第2外国語として英語が必須科目となっている。

高等教育

国立エルサルバドル大学に日本語講座があり、単位取得も可能になっている。

学校教育以外

日本語学習者はアニメや J-POP に関心のある若者や、日本への留学を希望する者、日本文化に関心のある者が中心である。

3.教育制度と外国語教育

教育制度

教育制度

6-3-2 (3) 制。

初等教育が小学校（プリマリア）の6年間（6～12歳）。前期中等教育機関の中学校（セクンダリア）が3年間（12～15歳）、後期中等教育機関の普通科高校（バチジェラート）が2年間（15～17歳）（技術系は3年間）。高等教育機関は大学（5年、医学部8年）及び技術専門学校（3年）。小学校及び中学校の9年間は義務教育。

教育行政

初等、中等、高等教育機関のすべてが教育省の管轄下にある。

言語事情

スペイン語が公用語。

外国語教育

公立の小学校では外国語の授業は行われていないが、私立の小学校の一部では外国語教育（英語のみ）が行われている。

中学校では、公立、私立共に英語教育（第一外国語）が必修。

高校では、公立、私立共に、英語教育が必修。また、私立高校の一部では、第二外国語としてフランス語、ドイツ語の教育も実施されているが、日本語教育は行われていない。

なお、2019年10月、国立エルサルバドル大学において孔子学院が設立され、本格的な中国語教育が開始された。また、韓国語教育はエルサルバドル工科大学に活動拠点を置いている。

外国語の中での日本語の人気

エルサルバドルの外国語学習者の人気第一位は英語、続いてフランス語となっており、ドイツ語、イタリア語、中国語、日本語などは前記の言語を習得した者が学習を希望する。但し、日本語の場合、アニメなどの普及で学び始める者が多いが、ある程度のレベルに達すると行き詰まり、習得後に活用する機会が少ないなどの理由から継続した学習を断念する者が多い。また、日本への留学を目的に学習を始める者もいる。

大学入試での日本語の扱い

大学入試で日本語は扱われていない。

4. 学習環境

教材

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

日本語学習者のほとんどが初級であるが、年々多様化するレベルに合わせて JF から寄贈された「まるごと日本のことばと文化」（三修社）や「BASIC KANJI BOOK」（凡人社）を中心に「みんなの日本語」（スリーエーネットワーク）やや KANJI LOOK AND LEARN（ジャパントイムズ）初級日本語 げんきⅠとⅡ（ジャパントイムズ）、カジュアル日本語（アルク）、レベル別日本語多読ライブラリー：にほんごよむよむ文庫（アスク）、日本語多読ボックス（大修館書店）等の教材を使用している。

学校教育以外

以前は「みんなの日本語」（スリーエーネットワーク）が主に使用されていたが、2020年以降はどの機関も「まるごと」（三修社）を主に使用している。

JF のオンライン学習「みなと」へのエルサルバドル人登録者は2023年10月時点で4,868名である。

IT・視聴覚機材

各機関によって教室での機材使用状況は異なるが、IT・視聴覚機材を使用し、視聴覚的效果を考慮したクラスの実施を心がけている。

5.教師

資格要件

初等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

中等教育

日本語教育の実施は確認されていない。

高等教育

資格要件に定めはない。

学校教育以外

教育省では、日本語教師の資格を特に規定していない。国立エルサルバドル大学人文科学学部言語学科や各日本語教育機関で日本語をある程度学習した生徒が日本語初級・中級クラスを受け持っているが、上級クラスを指導できる人材がないのが現状である。

日本語教師養成機関（プログラム）

当国内で日本語教師養成を行っている機関はないが、JF 事業の「海外日本語教師長期研修」に、2023 年 12 月までに 8 名、「海外日本語教師短期研修」に 2 名参加している。

日本語のネイティブ教師（日本人教師）の雇用状況とその役割

日本人教師の正式雇用はない。

教師研修

定期的に行われる JF の日本語専門家による現職の日本語教師対象の研修はない。2017 年より「メキシコ・日本語シンポジウム」に毎年参加している。

6.教師会

日本語教育関係のネットワークの状況

2016 年にエルサルバドル日本語教師会が発足し、会議や研修会、情報交換など定期的に行っており、2020 年より「エルサルバドル日本文化センター（KIZUNA）」に改称し、オンライン日本語教室を開始。

最新動向

中米・カリブ海日本語ネットワークを通じて各国代表者による会議を行うと共に、学生を対象とした交流会を実施し、各国学習者の発表や専門家や国費留学生の講演など積極的に行っている。

更に、中米大学（UCA）と共に日本経済大学の日本語教師による日本語能力試験 N5 受験者（中米・カリブ海の学習者）を対象とした特別クラスを月 1 回、オンラインで実施したところ多くの参加者があり、能力試験の合格にも繋がっている。

7.日本語教師派遣情報

国際交流基金からの派遣

JF からの長期派遣は行われていないが、2023 年 5 月に国際交流基金メキシコ日本文化センターの日本語専門家が来訪、5 日間に渡り当国日本語教師への研修を始め日本語教育機関の視察、関係者との意見交換が行われた。

国際協力機構（JICA）からの派遣（2023 年 10 月現在）

青年海外協力隊・海外協力隊

エルサルバドル国立大学人文学部外国語学科（UES） 1 名

その他からの派遣

（情報なし）

8.シラバス・ガイドライン

初等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

中等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

高等教育

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

学校教育以外

統一シラバス、ガイドライン、カリキュラムはない。

9.評価・試験

日本語学習者の到達度を測るための共通の評価基準や試験はないが、1 講習が終了すると試験を実施し、合格

者は次のレベルへ進める。また、希望者には日本語能力試験の模擬試験を実施している。

10.日本語教育略史

1970 年代初頭	JICA 海外協力隊員により国立エルサルバドル大学において日本語教育開始
1970 年代後半	内戦勃発のため JICA 海外協力隊員が撤退、これに伴い日本語講座も閉鎖
1995 年	内戦終結 3 年後に再び JICA 海外協力隊員 1 名が派遣され同大学で日本語教育が再開
2001 年	日本留学経験者の会（ASEJA）により日本語教室が開始され、現在は ASEJA 事務所において実施している（現在休校中）
2002 年	国立エルサルバドル大学で活動する隊員が 2 名となる
2007 年	国立エルサルバドル大学外国語教育センター（CENIUES）の日本語教室開始
2008 年	JICA 海外協力隊が 1 名となる
2009 年	国立エルサルバドル大学で活動する隊員が再び 2 名となる ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）での日本語教室開始。
2011 年	ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）への JICA 海外協力隊派遣開始
2012 年	JICA シニア海外ボランティア派遣開始
2013 年	当地にて第 5 回中米・カリブ海日本語セミナー開催
2015 年	ホセ・シメオン・カニャス中米大学（UCA）が JF にほんごネットワーク（さくらネットワークメンバー）に認定される
2016 年	エルサルバドル日本語教師会発足
2018 年	日本語能力試験第 1 回（7 月）開始

2020 年

エルサルバドル日本文化センター（KIZUNA）創設（旧エルサルバドル日本語教師会）オンライン教室開始

2021 年

日本語能力試験を第 2 回（12 月）に変更